第3回新川こども屋内レクリエーション施設の整備に関する検討会　主な意見

日　時：令和3年 10 月 26 日（火）15:00～17:00
場　所：県庁4階大会議室

＜主な意見＞

・施設の配置については、事務局案そのままだと文化ホールに近すぎるので、事務局説明資料 p17 の②と③の中間くらいがよいのではないか。
・この敷地の最大の特徴である広々とした芝生を活かし、景観に調和させることが大事。
・遊具・ワークショップ・乳幼児の各スペースをきちんと備えているのはよい。
・こどもみらい館のように小さな子や障害のある子も楽しく遊べる施設を新川地域にも早く作ってほしい。
・インターンシップ、民泊など交流人口拡大につながるソフト面の取り組みも含まれており良い素案になっている。子ども施設にとどまらず、まちづくり、移住など多様な政策につながる取り組みを、民間事業者を巻き込みながら展開できるとよい。行政的な縦割りを排し多様な施策に繋げることで施設の価値が高まる。
・大学生が施設に関わるためには、テクノロジーを学んでいる学生がメディアアート、インスタレーションを一緒につくるなどの取組みが考えられる。大学生も子供たちと一緒に遊べる取組みができると面白い。
・遊具にはいくつかのタイプがあるが、1 人 1 人の体力や技術を高める遊具よりも、遊びの舞台となる遊具、多くの子どもたちが関わり合ってコミュニケーションが生み出される場となる遊具を設計してほしい。
・ただ遊具があるだけでなく、人との出会いや関わりが生まれる場であることが望ましいが、計画にすべて盛り込まれている。特にインクルーシブな場は、単に障がいの有無という話だけでなく、全ての子どもたちを受け入れられることが重要。これから生きていく全ての子どもたちにとって重要な空間であり考え方だ。
・魅力的な遊具より、友達と一緒にかくれんぼや鬼ごっこなどのシンプルな遊びができる場のほうが繰り返し楽しめる。
・「遊び塾」のように、「遊びの天才」の施設のお兄さんが遊び方を教えてくれるような展開があるとよい。
・現代の子どもたちは親以外の大人との関わりが少なくなっている。ぜひいろいろな大人と関われる場としてほしい。また、親同士が交流できる場づくりとして親が学び伝えるプログラムも展開できるとよい。
・大学等の夏休み期間中は、保育士、教員志望の学生に加え、音楽、芸術、理工学部など多様な専攻の学生の力を借りて子どもたちを楽しませる企画ができるとよい。
・シンボル遊具は最初に子どもが集まると思うが、その周辺に、ちょっと一休みできたり違う遊びができる空間を設けるなど、飽きない仕掛けがあるとよい。
・シームレスな空間というコンセプトはよい。張り出した縁側部分で、雨の日に雨音を楽しんだり、風を感じたり、雪遊びや鬼ごっこができたりと多用途に使えるフリースペースを設けてほしい。
・富山愛（郷土愛）は大事だと感じた。若い女性が県外に流出している現状を踏まえ、ここで富山の自然とともに子育てしたいと思えるような、地域を愛する心も育む施設になってほしい。
・大人の仕事の疑似体験はとてもよい。社会体験を通じて、自分が社会の一員であり、社会の色々な人に支えられていると感じることができる。
・変化していける施設こそが最強。シンボル遊具のような固定化された遊具は変化できないため、そこがコンセプトと矛盾していると感じた。
・ゼロカーボンの建物づくりをしてはどうか。例えばソーラーや風力で発電したり、自然の風や水を利用したり、あるいは電気がなくなってきたら親が自転車をこいで発電するなど、スマートグリッド的な考え方も取り入れて、子どもたちも体験しながら学べる施設になるとよい。

・屋内施設としてのコンセプトはよくまとまっているが、いかに設計に落とし込めるかが重要。敷地の広い芝生エリアや既設の文化ホールを活かしてオリジナリティを出してほしい。
・現在の新川文化ホールは敷居が高いと感じているが、隣に全く違うコンセプトの施設ができることでエリアの価値が変わり、日常的に遊びに行ける楽しい場となることを期待している。
・孫は生まれたときからデジタルに染まっており、リアルなつながりが少なくなっている。この施設がつながりを育むことができる施設になればよい。
・地域の人も巻き込むことで、自分たちの施設という愛着が生まれる。地域の方の参画も視野に入れた画期的な維持管理の方法も検討してほしい。
・魚津市のみならず、新川地域全体から子どもたちが集まる施設にすべき。立案段階から地域の類似施設等とも連携し、新川地域の子どもたちの環境をどうしていくかという視点で検討していく必要がある。
・施設の独自性を出すためには、全世代的な参加が必要。遊ぶのは幼児～小学生だが、中高生、大学生や親世代が遊びの企画・提供側になることも考えられるし、親にとっても面白い体験ができる施設にすべき。
・中身の更新や入れ替えが可能な仕組みが必要。例えば大学生や企業のチーム等がつくったものやアイディアを定期的に更新していくことでまた行ってみたいと思える驚きを作り出すとともに、大人のアイディアを具体化し検証する場になればよい。
・子どもに経験させたい、学ばせたいものを提供するという学校的な発想ではなく、子どもたちが自分のアイディアを具体化できる場にできるとよい。子どもが何かを創り出す仕掛けを、地元の専門家や学生の参画のもと、アートとエンジニアリングを組み合わせて作ることができれば理想的。
・子どもが元気になると親も元気になる。子どもたちが生き生きと遊べる空間を早く実現してほしい。
・富山県は雨や雪の日が多い。そのような日でも外に遊びにいきたいと思う仕掛けが必要。
・子どもたちが主体的に楽しめる空間を実現することは、富山県に住み続けたい、県外に出てもまた昔遊んだ楽しかった場所に戻りたいと思うきっかけになる。そういう意味でこの施設は未来への投資になる。
・子どもがつくっていく仕掛けのある空間にすべき。そのためにはメンテナンス、安全確保、リスク管理ができる、柔軟性と可変性のあるシンプルな空間にすべき。
・この施設に即効的な経済効率や24時間収益を求めるのは違う。子どもたちがここで育ち、やがて帰ってきてくれる場というコンセプトでつくっていくのがよいと思う。PFIはリスクがあるのではないか。
・新川文化ホールとの関わりは、同じ敷地に建つ以上、外してはいけない大事な視点。文化ホールの運営を一部変えることも必要かもしれないし、互いに案を持ち寄って何ができるのかを考えることも必要。
・子どもの遊び以外の用途に使えないのではタイムシェアは実現しないので、規制緩和をするなど、うまく活用する方法を検討してほしい。夜7時以降は真っ暗で翌朝まで使わないというのはもったいない。
・子どものための施設なので、今後のいずれかの段階で子どもの意見を聞く機会を設けてほしい。
・単純に規模を決めてしまうのではなく運営形態からも考えるとよい。この敷地の最大の特徴は広いスペースがあること。例えば外にも遊び機能を担わせれば、施設自体は小さくても遊べる範囲は広くなる。

＜座長まとめ＞
・全体として、方向性に大きな異論はなかった。素案に肉付けする形でまとめてほしい。
・施設規模に関しても特段の異論はなかった。芝生エリアや景観を活かすことを考えると、あまり大きなものにならないのではないか。
・シンボル遊具についてはいろいろな意見があり、飽きるのではないかという意見もあったので考える必要があるが、この施設のメッセージを伝えていくうえでは何らかのシンボル的なものは必要だろう。
・フリースペースをいかにうまく利用していくかが重要ではないかと感じた。